

鉱工業生産は3カ月ぶりに上昇 住宅着工は前年比マイナス圏で推移

7月の鉱工業生産指数は前月比+7.5%の105.7となり3カ月ぶりに上昇し、持ち直しの動きがみられる。

8月の住宅着工戸数は、前年同月比▲41.9%の803戸となった。建築基準法・省エネ法改正による駆け込み需要で急増した3月からの反動減がなお続いているとみられ、駆け込み需要前の水準にも戻っていない。

各指数の矢印については
現状の景況感をあらわす。



上向き



横ばい



下向き

鉱工業生産指数



3カ月ぶりに前月比上昇(7月)

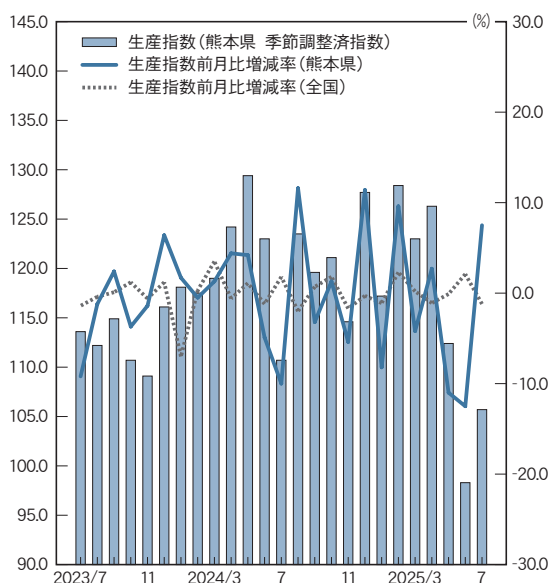
7月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、速報値で前月比+7.5%の105.7となり、3カ月ぶりに前月から上昇した。

生産指数(季節調整済)を業種別にみると、汎用・生産用機械工業(前月比+21.9%)、化学工業(同+14.2%)、電気機械工業(同+45.2%)など7業種が上昇した。一方、輸送機械工業(同▲14.5%)、電子部品・デバイス工業(同▲19.0%)、プラスチック製品工業(同▲14.0%)など9業種が低下した。

業種別寄与度を見ると、汎用・生産用機械工業が+6.33ポイント、化学工業が+1.98ポイントとなり、全体の生産指数を押し上げた。

出荷指数(季節調整済)は前月比+3.0%の108.2となり、3カ月ぶりに上昇。在庫指数(同)は同▲7.3%の78.9で2カ月連続で低下した。

鉱工業生産指数前月比 (2020年=100 季節調整済)



※最新月は速報値

資料：熊本県統計調査課、経済産業省

住宅着工



着工戸数は5カ月連続で前年比マイナス(8月)

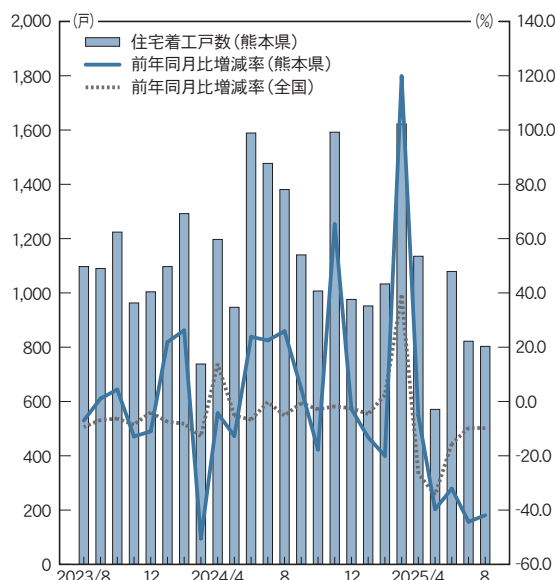
8月の新設住宅着工戸数は、前年同月比▲41.9%の803戸となった。

省エネ基準の適合義務化や、一定の条件を満たす場合に建築確認申請を省略できる4号特例の縮小による駆け込み需要で急増した3月からの反動減が続いていると見られる。

利用関係別にみると、持家が327戸(前年同月比▲36.3%)、貸家は342戸(同▲40.3%)、分譲は125戸(同▲57.3%)であった。

全国の8月の新設住宅着工戸数も、60,275戸(同▲9.8%)と5カ月連続の減少となった。

新設住宅着工戸数前年同月比



資料：国土交通省

公共工事



請負金額は前年比マイナス(9月)

9月の公共工事請負金額は280億23百万円で前年同月比▲9.7%となった。

公共工事請負金額前年同月比

以降は会員専用ページにて公開しております。

請負金額を発注者別にみると、国は67億76百万円(前年同月比▲2.7%)、熊本県は28億71百万円(同▲31.2%)、熊本市は36億32百万円(同▲15.5%)、熊本市東区は10億70億76百万円(同+6.9%)となっている。

地区別では県内11地区のうち、熊本市東区、玉名地区などの4地区が前年比プラスとなり、八代地区、天草地区などの7地区がマイナスとなった。

[ご入会はこちらから](#)

(入力は数分で終わります)

[会員の方はこちらから](#)